

I 学校の教育目標

よりよい答えを求めて、ともに学び続ける高瀬っ子を育てる

II 育成を目指す資質・能力

多面的・総合的に考える力

IV 学校評価4点セットの学力の重点目標

根拠をもとに考え、対話を通して思考を深める

V 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

国語科単元テスト「知・技」77%、「思・判・表」82%以上
児童質問紙「国語が好き」、「理由を考え、考えを伝え合うこと」、「比較・整理し、自分の考えを書くこと」70%以上

VI 授業改善の取組(「**授業改善の5点セット**」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善テーマ	単元構想を出発点にした授業デザイン
②授業改善の重点	単元計画を児童と共有し、学習の見通しをもたせることで、児童が前時とのつながりや学びの目的を意識しながら、主体的に学習を進める授業づくりを行う。

(研究仮説)

子どもが、「書くこと」の学習における取材・構成・記述・推敲・共有の各過程において、自身の経験や資料、友だちの考えなどを根拠に、多面的・総合的に比較・関連付けながら対話し、スタディログを用いて思考を整理・深化することで、主体的に書く過程を進めることができ、「書くこと」への抵抗感が軽減され、書くことをいとわない態度が育つであろう。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1学期	○児童との単元計画の共有 ○スタディログの蓄積	○担任は、単元導入時及び適宜単元計画を児童と共有(毎単元) ○担任は、国語科におけるスタディログの活用による、考えや理由の記録と、思考の整理(毎単元)	○国語科単元テスト「知・技」77%以上、「思・判・表」82%以上 ○「国語が好き」70%以上 ○「理由を考え、考えを伝え合うこと」70%以上 ○「比較・整理し、自分の考えを書くこと」70%以上	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2学期				

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3学期				

III 児童・生徒の課題

	学力状況について	学習状況について
児童・生徒の課題	国語・算数ともに、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題がある。また、記述問題への解答に課題がある。	授業には落ち着いて参加している。しかし、課題解決場面において、既習事項を活用することに課題があり、学びの連続性が意識できていない。

VII 学習定着状況の把握とフォローの取組 および

個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	・キュビナ配信担当による取組及び定着状況の把握(3年生以上) ・教科担任制による授業力向上(3年生以上)	いずれも毎日実施	
2学期			
3学期			

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VIII 学校・家庭・地域の協働の取組

※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
家庭	・家庭でのキュビナ学習 ・週末ぱっちりプリント	・キュビナ学習(3年生以上毎日) ・ぱっちりプリント(全校毎週末)	1学期 2学期 3学期
地域	・人権・環境教育を基盤とした生活科・総合的な学習の時間の充実 ・公民館と連携したクラブ活動・学習支援	・年間を通じて計画通り実施	

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

IX 令和8年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和8年度学校評価の4点セット 達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期

※学期末の評価を1~4で入力(達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値)
※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

① 「楽しくて力の付く授業～新大分スタンダード改訂版～」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当者数 9人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点 %	11月末時点 %

※割合(%)は四捨五入して整数表示

② 管理職等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1学期	2学期	3学期

※プルダウンで○、×を選択

③ 計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1学期	2学期	3学期

※プルダウンで○、×を選択